

## 第8期第1回 新潟市亀田地区公民館運営審議会 議事概要

日 時： 令和3年8月4日（水） 午後1時30分～午後3時30分

場 所： 亀田地区公民館（江南区文化会館）多目的ルーム1・2

出席者： 新潟市亀田地区公民館運営審議会 阿部委員、植木委員、遠藤委員、齋藤(真)委員、  
齋藤(裕)委員、坂井委員、塚野委員、弦巻委員、  
戸田委員 (五十音順)

【欠席】横木委員

事務局	亀田地区公民館	拝野（館長）、原（主任）、上野
	曾野木地区公民館	山上（館長）
	横越地区公民館	鈴木（館長）、高山

1 開会 館長あいさつ

2 正副議長の選任について

議長に齋藤裕委員を、副議長に遠藤由美委員を選任

議長、副議長あいさつ

3 議事（報告事項）

（1）令和2年度事業報告について

（事務局） 令和2年度事業実施結果及び令和2年度事業評価シートについて説明

（坂井委員） 亀田地区公民館のゆりかご学級第2期の代替事業「大人の絵本時間」は、これまでのゆりかご学級とは違っていたと感じた。館長評価にオンラインを取り入れたとの記載もあったが、そういうことを今後も検討していただければと思う。

また、ゆりかご学級は、同じ境遇にあるおかあさん同士が、日々の悩みや不安を話して共有したり、仲間をつくったりする時間がとても大切であり、公民館を知る良いきっかけでもあるので、令和2年度の第2期の受講対象者の方に、何らかの形で公民館につどって話したり仲間をつくったりする機会を設けていただけるとありがたい。

曾野木地区公民館の「そのきコミット」は満足度が高かったと説明があったが、参加者はどの世代の方が一番多かったのか。

（拝野館長） 「大人の絵本時間」は、受講者のお子さんを預かる保育サービスを実施することができず、お子さんの預け先が見つからないなどの理由から参加者が少なく残念であった。通常のゆりかご学級では、5回の講座を通して、受講者同士がコミュニケーションをとって仲良くなり、さらに特別編で文集づくりなどを通して、仲間づくりをする機会を必ず設けていた。今回の代替事業では、そこまで講座内容を深めることができず、講座対象者の皆さんに対して申し訳なく思っている。令和2年度第2期のゆりかご学級対象者には、今後実施する幼児期や児童期の家庭教育学級への参加を呼びかけていき、仲間づくりなどのフォローアップができればと考えている。

オンラインの取り入れについては、今後実施する講座でも検討していきたいが、公民館は本来、人と人がつどって、そこでのコミュニケーションを通して関係づくりをしていく場なので、コロナウイルスが収束すれば、オンラインに頼るのではなく、直接、フェイストゥフェイスのコミュニケーションをとっていただければと考えている。やり方の工夫ということで、遠隔地の講師に旅費を払って実施するより、オンライン

で旅費を削減するなどの活用ができると思うので、そのような面でオンラインを生かしていければと考えている。

(山上館長) 今、手元に参加者の年齢構成が分かる資料がない。「そのきコミット」の落語の講座は先着20名、AEDの講習会は10名、スマートフォンの教室も10名ということで人数制限をして講座の受講者を募集した。落語は9名、AEDは6名、スマートフォンは10名の参加をいただいた。いずれも平日での開催だったことから、若い世代はいなかったということで回答とさせていただきます。

(斎藤議長) 横越地区公民館の苔の講座やアマビエを彫る講座は、受講希望者が多く、満足度も高かったと思うが、残念ながら館長評価が「D」：事業廃止になっている。他の講座の中で実施できればとも思うが。

(高山主査) アマビエの講座は当初土曜開催の1回のみだったが、希望者が多く、講師に相談して、受講者に平日でも参加できるかどうか確認して、2班に分けて実施した。

苔の方も、講座の定員を増やして実施し、自主サークル化して活動を続けている。

(斎藤議長) 講座から発展して、サークル化するのが公民館にとっても一番良いこと。芽出しをするというか種をまくという意味で、希望者も多くてよかったと感じている。

(齋藤委員) 亀田地区公民館の「親子DEお悩み解決 お笑い授業」は、亀田東児童館とコラボレーションしてやっている。今、小学校でもSNSについて授業等でやっているが、これは学校だけの問題でなく、親と子のコミュニケーションの問題なので、公民館で、複数回やっていただきたい企画だと感じた。

横越地区公民館の「あなたはあなたでいいんだよ」という企画は、私もPTAとして学校に関わっているので、不登校などの課題もあり、かなり気になっていた。受講者の感想などお聞きすることができればありがたい。

(拝野館長) 家庭教育講演会の出前型講座については、出前講座の実施を希望する団体等から応募していただき、その団体と相談しながら、どんな講座をやっていくか決めている。今回の芸人さんに来ていただき、親子で話し合っ、SNSやゲームについてのルールつくるといった内容は、亀田東児童館で、テーマを設定していただいて実施したもの。

この講座を公民館の定番の講座に位置付けて実施していくかどうかについては、今後、検討していきたいが、出前の形で同様の講座を実施していく場合は、出前を希望する団体の意向を踏まえて、実施の可否について判断していきたい。

(齋藤委員) 亀田東小学校のPTAとして、出前型講座の実施を希望したら、やっていただけるものか。

(拝野館長) 可能である。ぜひ、こんな形で実施したいということでご相談いただければ、出前講座を開催することができると思う。

(齋藤委員) 持ち帰って学校の方と話しをして、やる方向で進めたい。

(拝野館長) 了解した。

(高山主査) 横越地区公民館の「あなたはあなたでいいんだよ」は4回講座だったが、第3回目の『学校に行けなくたって、あなたは大切な人』にだけ出たいと希望される方がかなりいた。

あと第2回目の『男の子？女の子？私が選んだ性について』では、新潟市で初めてパートナーシップ制度を選ばれた井浦さんに話していただいたが、参加者の中で女性

のパートナーがいる方からもその場で話していただき、「自分はそれで良かったんだ」と思えたと言っていていただき、受講者から普段聞きたくても聞けないような話を聞かせてもらったということで、満足度100%をいただけたと思っている。

(阿部委員) お笑い芸人の森下さんを亀田東児童館に呼んで開催した家庭教育講演会を企画した経緯としては、小・中学校で全児童・生徒にタブレット端末が配布されるということを受けて、いつも児童館を利用している小学生のお子さんを持つおかあさんたちから、SNSの使い方や子どもたちがどのように(タブレット端末を)使うのか心配だという話や、SNSや携帯に限らず、ゲームをする時間を決めているが、なかなか約束を守らず、いつも親子で喧嘩になるという困り事をよく聞いていた。一方で、子どもたちから「でも30分って短いんだ」みたいな言い分もあり、それなら、おかあさんたちと子どもたちとで、お互い親子で話し合える機会をつくれるといいんじゃないかと思い、公民館に協力をお願いした。募集をかけてみると、おかあさんたちは自分たちにとっていい話が聞けると思い、すごく興味を持って聞きたいと思ってくれたが、子どもたちは、この話を聞いたら自分たちはもうゲームしちゃ駄目って言われるんじゃないか、もう携帯欲しいって言えなくなるとか、自分にとって不利な話になるんじゃないかと思われて、本当に話を聞いてほしかった親子には参加してもらえず、ちょっと残念だった。今回、家庭教育講演会と大きく打ち出して、お笑い授業というふうに名前を打ったが、授業とか講演会だと、子どもたちには、なかなかとつきにくいというか、子どもたちの興味を引くには堅苦しすぎたという反省もあった。SNSとの付き合い方は、これからも問題、課題なので、おかあさんたち、子どもたちの声を聞きながら、開催のあり方を考えていきたい。

公民館では、母子分離で行う事業が多いと思うが、おかあさんたちは母子分離の事業には、参加しづらいのではないかと感じた。お子さんを預けて面倒を見てくれる人がいれば参加できるが、預け先がないと子どもと離れられないという話を、児童館でイベントを開催するときにも聞いている。児童館では基本、母子分離の事業はできないので、児童館でイベントや講演を行う際は、おもちゃが置いてある部屋をそのまま使っておかあさんたちが話を聞きながら、その周りで子どもたちがおもちゃで遊んでいるという形をとらせてもらった。お子さんたちもおかあさんたちのそばで過ごせるので安心できるし、おかあさんたちも目の届くところで、子どもたちが遊んでいるので安心して話を聞くことができたのではないかと思う。新型コロナウイルスの感染対策として参加人数を制限して開催したが、何か講演会というより、座談会みたいになって、おかあさんたちからも質問がよく出たり、おかあさんたちの声も先生に届きやすく、実りの多い会になったと感じた。

もし児童館が手伝えることやアドバイスできるようなものがあれば、お手伝いさせていただけたらと思っている。

(拝野館長) 母子分離で行う事業、母子一緒にやる事業、それぞれ良い面がある。公民館で家庭教育学級、ゆりかご学級をやっていると、おかあさんの実感として、日々子どもと一緒にいる中で、ゆりかご学級に参加して、子どもを保育に預けて、自分だけの時間を持てたのはすごくありがたかったとか、普段、子どもと2人きりで、夫が子育てを手伝ってくれなかったり、夜泣きをしても、自分が眠い目をこすりながら起きて、夫はその間、熟睡しているといった不満があったのが、子どもを預けて、参加したことで、

そういう子育ての苦勞からいつとき解放されたといった感想をよくいただく。子どもと親と一緒に学ぶ場が当然あっていいと思うが、一人の時間を大切にするという、その機会も大切だと思うので、ゆりかご学級については、このようなやり方でやっていきたい。人間は子育てを社会でやる動物で、多くの大人が関わりながら子どもを育てていく。そういう生き物であるので、母子分離も不自然な形ではなく、いつとき、おかあさんがほっとするような時間や自分で友達を作る時間、学ぶ時間も大切にしていければと思う。その上で、児童館からいろいろなノウハウをいただきながら、ここはこうしたらいいとか、アドバイスをいただきながら、より良いゆりかご学級や公民館事業にしていきたい。今後もアドバイス等お願いしたい。

(斎藤議長) 公民館で母子分離を図るためには、保育者を配置しなければならない。そのところをどうしていくかの問題だけで、私も両方ともあっていいと思っている。お金はかかるが、よろしくお願いしたい。

SNSとゲームの問題は、今、オリンピックでもSNSがものすごいことになっていて、ルールや役割について、どこかでしっかり教える必要がある。公民館も含めて公教育、地域が取り組まないといけない課題。これが大人から子どもへどんどんと広がっていかないようにすること、もう一つはゲームをどうするか。ゲーム依存、青少研の方でも依存症の中にゲーム依存を入れてきた。一方で、eスポーツという形でゲームの社会的な認知を広げていって、それで儲かる。オリンピックまでしようみたいな話が出てくるところとどう折り合いを付けていくのか。学校をはじめ、公民館、児童館や福祉関係もここ数年の大きな課題になるだろうと思う。知恵を出し合いながら、あるいは講座をどうしていくのが課題だと思う。

## (2) 令和3年度事業計画について

(事務局) 令和3年度事業計画を説明

(弦巻委員) 今年度、曾野木地区公民館の「そのキッズ」で、「子どもきもだめし大会」を行った。去年の夏休みは、コロナウイルスのために、子どもたちの行事が何もできなかったので、今年こそはやろうということで、いろいろスタッフと公民館で計画して、例年3年生から6年生までが対象だったが、今年は5、6年生で人数を制限して30名ほどが参加した。2人1組で回って、楽しくきもだめしをすることができた。

あと、曾野木地区公民館の館長が、いろいろとこの日のために作ってくれた。法被(はっぴ)やマスクを作って、法被は私が、マスクは女性の案内人の方々が着用した。狐のお面も手作りして、お化け役みんなでかぶっていた。子どもたちは、怖くて階段を上がってこれない子や、平気で行く子、いろいろいたが、せっかく作ったお面は見えてくれなかった。それでも、子どもたちにとっては、楽しい思い出になったのではないかな。公民館の気合の入れ方が、すごかったなので、子どもたちも私たちも楽しく過ごせて良かった。

(斎藤議長) 楽しい事も少しはできないと。子どもたちみんな辛い状態になっているので、よかった。衣装を作っていただき、頑張っていたでいかげでしたか。

(山上館長) 子どもたちより私が楽しんで、いろいろ作らせていただいた。狐のお面を9個作ったが、子どもたちに最初に、「狐は何匹居るのでしょうか？」と問いかければよかったのだが、9匹居たということを誰もあてられなかった。もう少し工夫すればよかった。

来年コロナが落ち着いて、もっと大々的にできたらいいなと考えている。

(坂井委員) 家庭教育学級について、母子分離は、おかあさんだけでなく、子どももすごく成長していくので、これからも、続けていただきたい。あと、不登校の話やゲーム、SNSについては、学校だと対象は子どもたちだけになってしまうが、公民館だと、子どももおとうさんもおかあさんもおじいちゃんもおばあちゃんも、近所の人もみんなが出てもいい内容、いい講座ができる場所なので、ターゲットを絞ることもいいと思うが、みんなで考えてみることも、いいのではないか。そういうことについて意見をいえる場所は、なかなかないと思うが、公民館がそういう場所ではないかと感じた。

あと、亀田地区公民館の「孫育て講座」、これは公民館だけでやるのか、健康福祉課は関係ないのか。

(拝野館長) 今回は、公民館独自で。

(坂井委員) 健康福祉課で「パパノート」という、母子手帳のパパ版みたいなものを江南区は出しているが、「ジイジ・バアノート」みたいなものができれば・・・よく、おかあさん同士で話題になるが、おじいちゃん、おばあちゃんと同居だったり、近所に住んで預けたりすると、お菓子をいっぱいあげちゃうとか、そういう話が、いろいろ出たりするので、この講座はどんなふうになるのかが楽しみ。おじいちゃんやおばあちゃんになるような方々が対象の講座になると思うが、その方々だけじゃなく、おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなが話せるような場であってほしいので、今後、そういうことをやっていただけたらと思う。

(植木委員) 事業計画を聞いて感じたことは、「孫育て」、それから「防災」、その二つが今回の計画にあがっていてよかったということ。「孫育て」は、おとうさんおかあさんは大助かりなので、本当にいい計画だなと思った。あと、講座のときの母子分離は、その時々その講座のねらいによって、分離するべきか、一緒がいいのか判断するとよい。普段忙しくて、お子さんと心を通わせてじっくり遊ぶひとときが取れないおかあさんが大勢いる。だから、先程おとうさんとお子さんが、おかあさんとは別な部屋で、ベビーダンスなどを楽しんだという報告が亀田地区公民館からあったが、そういう親子ふれあい遊びや絵本の読み聞かせを親子で楽しむことは、大切と思った。ふれあうひと時はお子さんにとっても、親御さんにとっても幸せな時間になるし、公民館で得た幸せが家へ帰ってからも多分続くと思うので、それをまた「孫育て」で、おじいちゃんおばあちゃんに体験してもらえるとすごくいいと思う。そして、親御さんは忙しいので、本とか、例えばテレビやSNS、いろんなところから子育てについての情報をいっぱいもらっていると思うが、公民館へ来て、生の声を聞いたり、生の声を発したりする参加者同士の交流、そのことがとても大事じゃないかと思うので、公民館のこの講座は、とてもいい計画だと感じた。

あと、防災も今、異常気象が多くて、大雪や大雨があつて、いつ避難しないといけないか心配だが、そういう今あることを計画に取り上げていることが、とてもありがたいことだ感じた。

(遠藤副議長) 今、防災の話が出てるが、ずっとこのコミュニティコーディネーター育成講座を開催してきて、今年で一区切りだが、リーダーとなる方が、どれぐらいの人数育ったのか？この後、こういう研修受けた人がいるから（その人たちの活躍の場について、）コミ協さんよろしくねという形でいくのか、それとももう少し公民館で頑張るのか、もし

見通しがあるのであれば教えていただきたい。

(原主任) このコミュニティコーディネーター育成講座というのは、そもそもの出発は、近隣住民のつながり、関係が希薄になって、地域の団体である自治会や町内会の活動が停滞したり、参加する方が減ってきているので、いかにその地域の活動を活発化するかということで、その地域の団体と住民をつなぐコーディネーターを育成しようと始まったもの。

その中で、何が一番地域の人たちを引き付けるかということで、近年、災害が多発していることや東日本大震災もあったことから、防災という切り口で、親子で学べるような講座を令和元年度から3年間やってきた。今年度が最後となるが、受講者の中で同意をいただいた方を組織化して、地域の自治会やコミ協の防災訓練に活用していただき、防災を学びながら、地域の方たちが、自治会、コミ協などの団体の活動に参加できるようなところを目指している。ですから、今後、江南区の地域総務課と連携しながら、自治協にPRしながら、講座を終えた方たちを活用していただいて、防災教育を進めながら、地域の住民が、地域活動に参加するということを目指して、これからは講座受講者と地域の団体をつないでいければと思っている。

(斎藤議長) コミ協との連携をどちらが主導的にやっていくのか、先ほどの横越の清掃ではないが、どこも、そろそろコミ協が主導する方がいいという感じでしょうか。

コミ協自体はなかなか人材育成ができないので、このように公民館が人材育成を事業としてやっていくことが大事だと思う。今後、この事業がなくなった後、どうしていくか、何か企画していかななくてはいけないだろうと。他のところはちゃんと防災をやり始めたので、今後の課題として皆さんも意識していただいて、令和4年度以降どうするか考えてほしい。

(齋藤委員) 私、自治協にも関わって、コミ協にも所属しているが、亀田東小学校区で、コロナ禍における避難所開設訓練をしたとき、私が最年少だったと感じている。ということは、公民館が開催したコミュニティコーディネーター育成講座とうちのコミ協の連携が取れていれば、その方たちが十分うちのコミ協に入って活躍できると思う。コミ協の方ももっと公民館の情報をもらって、その方たちを入れられるような努力をしなきゃいけないと思うが、いかんせんコミ協の方も、だいぶ年齢が上がってきていて、なかなか新たな人材が入ってこないのも私も掛け持ち掛け持ちになっている。事業計画を見ても、亀田地区公民館の事業だけなぜかコミ協の名前が入っておらず、コミ協との共催がないところが気になっていた。何かいろいろコミ協と一緒に共催ができたかなと考えていた。

(拝野館長) 公民館が地域のネットワークのハブになっていくというふうには新潟市全体で考えているので、いろいろな団体との関わりをもって、少しずつでも、いろんな人につながってもらいたいと思っている。今後、コミ協さんともパイプをつないでいければと思っている。

(斎藤議長) いろんな課題が、急速に時代が変わって出てきているので、私も追いついていきません。遠藤さん最後に、この後、終わりの方に向かって何かコメントがあれば・・・

(遠藤副議長) やはり届けたい内容と、もらう方のこれを受けたいという内容が、なかなか合致しない部分があると思うので、その辺をどうやって探っていくのかが、とても大事なポイントになるだろうと考えさせられた。

ただ、公民館や、そこに関わる人だけでなく、その周りにいる人も取り込んでいくと、きつともっと充実するのではないかと感じたので、どうやってその縁を広げていくかということが、公民館の一つの大事なポイントであり、私たちも、どうやって縁を広げていくのかを考えていかなければならないと感じた。

ぜひ、昨年度の反省を生かして、今出されている課題、その解決のためにどうするのかというところに知恵を出しながら、頑張っていたいただきたいと思う。

(斎藤議長) せっかくですので、戸田先生、塚野先生、一言ずつお願いします。

(塚野委員) 中学校の方から見ていると、今一番難しいのは、家庭の教育力に差があったり、子育てに対する責任感という部分が非常にまちまちだと常日頃感じていること。そうした時に、学校と家庭と社会、社会の中でも一番関わりを持てるのが、公民館や公の施設。そういったところに関わってもらおうと、ありがたいと常日頃から思っている。

事業計画を単純に企画の数で見ると、家庭教育の向上に関するものが、たくさん入っていて、すごくありがたいと思っている。ぜひ、親御さん、パパママになったばかりの方から、子育ては楽しいし、子どもを授かったことはありがたいと思いながら、一緒に成長していけるような、それを評価してあげるような場面がたくさんあると小学校・中学校とお子さんが進んだ時に、親御さん自身が自信を持って子育てができるようになると思うので、ぜひ、これからも公民館のそれぞれの事業を頑張っていたいただきたい。

あと、個人的に思うところでは、元気な高齢者を活用していかなければということ。私も社会教育主事を3年ぐらいやったが、自分たちだけやるのはなかなか大変で、いろんな支援やバックアップしてくれる人が増えるとすごく楽になるし、いい企画が出てくる。時間的に余裕のある元気な高齢者の中から、お一人でも二人でも、協力してもらえるような宣伝をしていくといいと思うので、ご検討いただければと考えている。

(戸田委員) 今日は参加して、本当に勉強になったなというのが感想。〇〇教育という言葉がいろいろある中で、学校に勤めていると学校教育しか考えてなかったということがとてもよく分かった。

社会教育とか生涯教育という分野で、幅広くてとてもアイデアに富んだことをされているんだなと勉強になった。

途中で、拝野館長から子育ては一人ではできないとの話があったが、学校にいて、強く感じるのは保護者同士のつながりが希薄だということ。保護者同士のつながりがあれば、学校が対応しなければならないことも少なくなるのでないか。亀田中学校の校長先生も仰っていたが、社会やコミュニティや保護者同士をうまくつなぎながらやっていかないといけないと思った。

(斎藤議長) ありがとうございます。本当に大きな問題、また急速に問題になってきているのが、ヤングケアラーの問題。本当に小学校の低学年から、家庭のケアを担うということが、現実的に起きてしまっている。それを学校だけではなく、社会教育、あるいはすべて生涯教育という形で、何かサポートして、コミ協も公民館も学校も協力しあって、子どもたちが楽しく人生に向き合えるように、あるいは大人もともに歩めるようになっていく企画ができていくといいなと思っている。

今まで皆さんからいただいたご意見は公民館事業に反映させて、事務局とともに、進んでいきたい。

**【配布資料】**

- ・資料 1 - 1 ~ 3 令和 2 年度事業報告（亀田・曾野木・横越）
- ・資料 1 - 4 ~ 8 令和 2 年度事業評価シート（亀田・大江山・曾野木・両川・横越）
- ・資料 2 - 1 ~ 3 令和 3 年度事業計画（亀田・曾野木・横越）